

【地域の顔】 ～須磨区教育ボランティア交流会～

2月8日、須磨区菅の台地域福祉センターにて、COC事業コラボ教育にご協力をいただいている教育ボランティア様、本学教職員、北須磨支所保健福祉課の方、神戸大学地域連携室の方との交流会を開催いたしました。平成26年度よりCOC事業コラボ教育を須磨ニュータウン地区で開始し、今年で3年となります。3年間の活動をもとに、本学と地域との連携を今後どのように進めていくのかを考える機会として、初めて須磨区で交流会を開催しました。交流会は、コラボ教育やまちの保健室の出勤事業実施にあたり多大なるご協力・ご助言をいただいている竜が台地区、菅の台地区の民生児童委員協議会様に感謝状の贈呈から始まり、本学、神戸大学の地域活動の紹介、そして長年教育ボランティアとしてご協力いただいている西区在住の大屋庄平様・中塩健彦様から、教育ボランティアとしての経験談を語っていただく構成で進みました。経験談では、「看護師に何か恩返ししたい」という入院経験からの思いをきっかけに本学の教育ボランティアにご登録いただき、活動を始めて「生活が規則正しくなった」「自分の生きがいがいいになっている」ことなど、須磨区の教育ボランティア様にも非常に参考になるお話をいただきました。会の後半は「地域が大学に期待すること」をテーマに参加者間での意見交換を行い、「学生が住民の話を聞いてくれる時間をもっと増やすとよい」「教育ボランティアとして、何をやればよいのかもっと中身が見える機会があるとよい」「勤めている人も参加できるかわかるとよい」などのご意見をいただきました。これらの意見を参考に、本学のコラボ教育を学生や地域の方にとって、よりよい内容にしていきたいと思えます。



交流会の様子
菅の台地域福祉センターにて

【地域づくり・健康づくり】 就職説明会・訪問看護師として働くこと

在宅緩和ケアセンターほすぴす訪問看護師 高谷麻美子さん
訪問看護ステーションあさんて訪問看護師 岡田 梨佐さん を迎えて

12月19日、本学3年生を対象とした就職説明会が行なわれました。本学COC事業では、「訪問看護の人材育成」を取組みの一つに掲げており、在宅看護分野の講義時間や内容の充実を図ると同時に、看護職の長いキャリアの中で、訪問看護師としての就職に関心を持ってもらうことを狙いとし、本年度初めて、この就職説明会で現場の訪問看護師をお呼びしお話をいただきました。須磨区にある「ほすぴす」で働く高谷さんは、病院勤務時代は集中治療室で働かれた経験を持たれ、出産を機に訪問看護師となられたそうです。訪問看護では、ICUでの患者との関わりとは異なる看護と利用者との関係があり、「寄り添う看護」ということを実感として考えるようになったそうです。「あさんて（スワヒリ語で“ありがとう”の意味）」で働く岡田さんは、リハビリテーションに関心を持っておられましたが、訪問看護師の道を選ばれたそうです。訪問看護では在宅での看取りを経験することも多く、リハビリテーションとは求められるケアが異なる中、亡くなる過程を自然に受け入れることができるようになったそうです。

座談会では、訪問看護師に関心を持つ2名の学生が参加し、「子育てしながら働けるか?」「一生そこで働くことを考えたときに、訪問看護ステーションという選択もあるのか?」「いきなり新卒で訪問看護ステーションに就職するのはどうか?」という疑問が飛び出す中、高谷さん、岡田さんたちのご自身たちや同僚の方の経験をお話くださりました。まだまだ訪問看護の仕事については、知られていないことも多いですが、在宅看護のニーズが高まる中、本事業を機会に「訪問看護師もいいなあ」と思い将来その職に就いてくれることを期待しています。



就職説明会
学生を前に訪問看護の仕事についての説明が行われている